

## はじめに

障害のある人たちとの関わりのなかでは、「どうしてこんな行動をとるのだろうか?」「どのように対応していけばよいのだろうか?」といった「ハテナ」にたくさん遭遇します。そんな「ハテナ」に向き合うためには発達の視点をもつことが大事だと言われてきました。

そもそも発達の視点をもつとはどういうことなのでしょうか。

障害のある人のどういう姿を見つめることが発達をとらえているということになるのでしょうか。

シリーズ本第一弾となる本書は、発達について初めて学ぼうとしている方たち、発達の視点というものが正直いまいまいくわからないと感じている方たちが、あらためて発達についての基本的な考え方を知り、障害のある人たちのねがいや思いについて同僚や家族、仲間どうしで

語りあう一助になればという思いでつくられました。

第1章では「発達の基本的な考え方」について、第2章では「発達と実践の関係」について、第3章では「発達と障害（問題行動の理解）」について解説しています。

障害のある人たち一人ひとりの思いを発達の読み解きながら、「こんな関わりができるんじゃないかな」「自分が取り組んできた実践はこの人のこういう思いに寄り添っていたんだ」と再発見できる一冊になることを願っています。

さあ、私たちと一緒に障害のある人たちの発達理解への第一歩を踏み出しましょう。

全国障害者問題研究会 研究推進委員 松島明日香